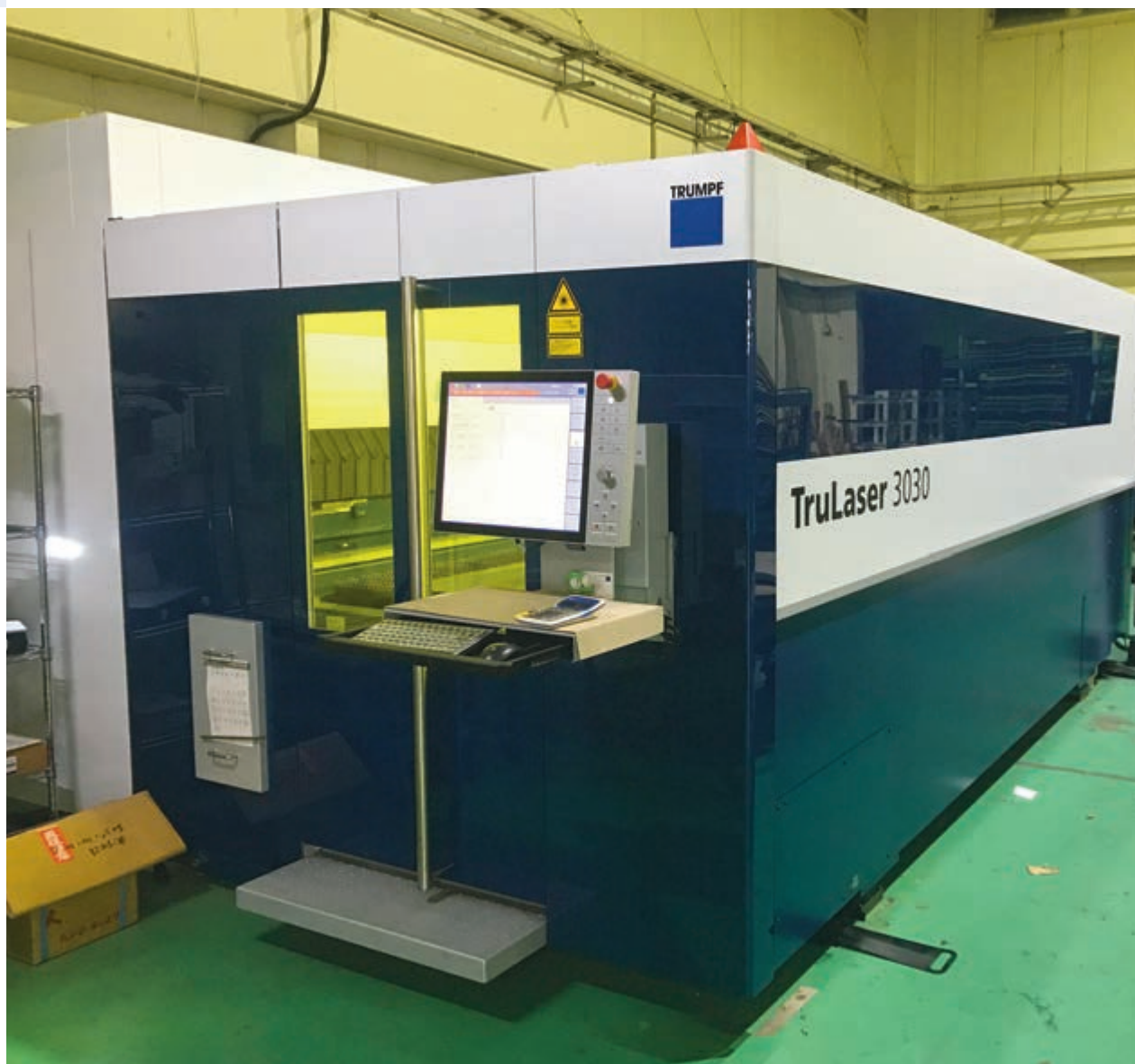


事業取組みの経緯

当社は、昭和33年に創業以来、「精密板金加工」を強みとして、種々の電気・機械装置メーカーへ装置の一部となる部品を提供しているが、半導体関連業者への売上が当社全体の売上の8割を占めていた。激変する経済環境の中、受注変動の大きい業種から安定的かつ成長の見込める業種への転換を図るため、食品機械や医療機器向けの精密板金による部品提供へ軸足を移した。

事業内容

IoTを利用したネットワーク機能を持つファイバーレーザー加工機を導入した。切断工程においては、ファイバーレーザー切断能力を保有することができ、従来切断できなかった銅や真鍮といった難加工材の切断が可能となった。溶接工程においては、既設の溶接ロボットへレーザー出力4000Wの供給及び制御等が可能となり、従来加工できなかった中厚板への溶接を可能とした。



レーザーネットワークを活用した新規設備

平成28年度補正 ものづくり技術

レーザーネットワークを活用した新規設備と既存設備へのレーザー供給ラインシステムの構築

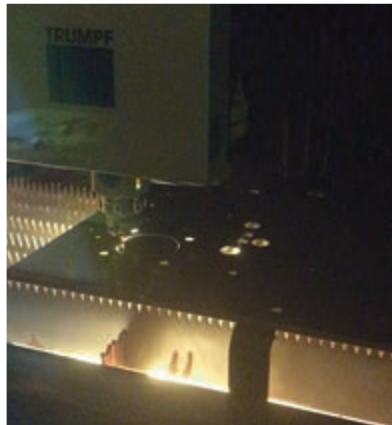
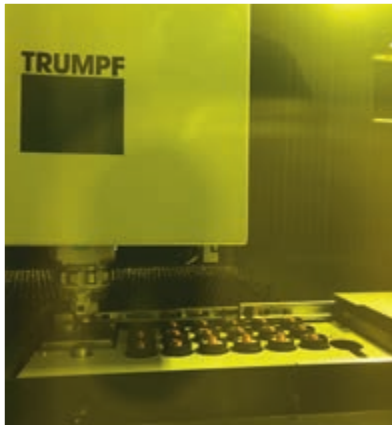
IoTを利用したネットワーク機能を持つマシンを導入することにより、最新機種に付帯しているレーザー発振器を既存の設備にも接続し、IoTによりそれぞれの加工設備へレーザーの供給を行い、溶接工程及び切断工程へ一つの発振器からレーザーの供給する生産革新を行う。

事業成果・達成要因

既存のレーザ加工機では難加工材であった銅・真鍮・純度の高いアルミの加工やお客様のニーズ対応（自由形状）が可能になり、医療機器メーカーとの取引が増大した。また、コネクタ改造や試作等に取り組んだ事でレーザ切断工程の生産性向上（60%向上）や多能工化が図られ、午後10時以降の深夜勤務が解消し働き方改革に繋がった。

今後の取組み

切断工程においては、新しい難加工材（銅・真鍮・純度の高いアルミ）等の材料を切断できるようになったことにより、従来の加工方法とは違う加工方法をお客様に提案していき、溶接工程においては、レーザ出力アップによる板を重ねた状態での加工工法を提案する。それにより、お客様の付加価値向上に貢献していく。



（左上・右上）製造風景
（左下）溶接ロボット
（右下）切断加工製品



令和ものづくり元年

未来創造 POINT!

次世代型
ファクトリーをめざす

[専門家からのアドバイス]

当該設備の導入で半導体関連の鉄系材料一辺倒から、医療・食品機器の銅・アルミ等難加工材料の加工が可能になり、安定的成長産業界への大幅な転換（一業態依存率の低下）が図られている。今後、TQC・TPM活動等人的活動の活性化による従業員満足度・顧客満足度の向上で経営の安定化・持続化を図られるよう期待する。

企業 PR

当社は、精密板金技術企業として、技術追及を行っているものづくり（加工）集団です。日本・海外のクオリティの高い加工機械を技術者がコントロールし、ステンレス・鉄・純度の高いアルミ・銅・真鍮といった板の材料から、立体形状の製作へ、ものづくり企業としてお客様のコスト削減等付加価値向上策を提案・提供し続けます。



社屋外観

企業概要

事業者 鹿児島ケース株式会社
代表者 代表取締役社長 居迫 伸孝
設立年月日 昭和38年5月14日
所在地 〒899-3309 鹿児島県日置市吹上町与倉4954-19
TEL: 099-245-1960 / FAX: 099-245-1961
〈URL〉 <https://www.kcase.jp/>

資本金額 1,000万円
従業員 51名
業種 金属製品製造業